

令和3年8月25日

決 算 説 明

8 月 定 例 会 議

常 総 市



認定第1号 令和2年度常総市一般会計歳入歳出決算についてご説明申し上げます。

まず、歳入につきましては、当初予算額2百32億3千3百万円のところ、補正及び前年度からの繰越額を加えました予算現額は、3百29億8千2百64万6千4百90円であります。これは、前年度に比較いたしまして83億8千83万5千7百90円で34%の増となっております。この予算に対する歳入につきましては、3百19億9百33万6千6百89円の収入済額で96.7%の収入率であり、前年度に比較し、78億3千48万7千5百80円の増となっております。また、調定額3百22億6千17万1千55円に対しまして98.9%の収入率で、3億3千57万7千4百71円の収入未済額を生じましたが、その主なものは、市税、諸収入等であります。

なお、市税につきましては、1千9百9万7千5百98円の不納欠損処分を行った結果、収入未済額は、2億5千6百69万8千62円となり、その他の収入未済額とともに、滞納繰越分として翌年度へ繰越いたしました。

次に、歳出につきましては、支出済額3百10億3千5百39万2千70円で、執行率は94.1%となり、10億5百84万6千20円の不用額を生じました。不用額の主なものは、民生費の3億2千8万5百56円、衛生費の1億8千18万7千29円などです。

以上申し上げました歳入歳出決算の結果、差引残額は8億7千3百94万4千5百19円となりましたが、このうち169万5千3百円は継続費繰越、1億5千3百56万8千9百円は繰越明許費の財源であり、これを差し引いた7億1千8百68万3百19円を、令和3年度へ繰越いたしました。

以上が令和2年度の一般会計決算の概要であります。詳細につきましては、特別委員会におきまして、ご説明申し上げますので、よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

認定第2号 令和2年度常総市国民健康保険特別会計歳入歳出決算についてご説明申し上げます。

まず、歳入につきましては、予算現額67億1千7百21万8千円に対し、調定額67億6千2百67万4千3百28円、収入済額64億2千97万9千6百27円であります。予算現額に対する収入率は95.6%、調定額に対しては95%の収入率です。

主なものは、国民健康保険税14億4千8百56万2百88円、県支出金44億6千8百46万9千4百47円、繰入金4億2千6百2万2千5百63円であります。なお、国民健康保険税につきましては、2千50万2千6百66円の不納欠損処分を行いましたので、収入未済額は3億1千9百6万2千3百5円となり、滞納繰越分として翌年度へ繰越いたしました。

次に、歳出につきましては、63億1千4百81万7千59円の支出済額で、このうち、43億5千7百6万4千4百17円が保険給付費、17億9千6百77万9千9百27円が国民健康保険事業費納付金になります。予算に対する執行率は94.0%で、4億2百40万9百41円の不用額を生じました。その主なものは、保険給付費の3億7千7百97万2千5百83円となります。

以上によりまして、歳入歳出差引残額は、1億7百16万2千5百68円となり、これを令和3年度へ繰越いたしました。

認定第3号 令和2年度常総市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算についてご説明申し上げます。

歳入につきましては、予算現額14億百3万3千円に対し、調定額14億6百43万9千6百46円、収入済額13億9千9百10万4千百46円であります。予算現額に対する収入率は99.9%です。

主なものは、後期高齢者医療保険料5億3千7百71万3千3百円、繰入金8億1千2百53万2千8百74円あります。

歳出につきましては、13億9千6百41万1千3百16円の支出済額で、後期高齢者医療広域連合納付金13億4千14万1千2百74円が主な支出であります。予算に対する執行率は99.7%で、4百62万1千6百84円の不用額を生じました。

以上によりまして、歳入歳出差引残額は、2百69万2千8百30円となり、これを令和3年度へ繰越いたしました。

認定第4号 令和2年度常総市介護保険特別会計歳入歳出決算についてご説明申し上げます。

歳入につきましては、予算現額53億2千6百76万6千円に対し、調定額54億2千51万6千5百28円、収入済額53億8千2百98万2千8百78円であります。予算現額に対する収入率は101.1%です。主なものは、保険料12億5百57万5千7百71円、国庫支出金11億4千3百63万7千7百65円、支払基金交付金13億3千9百92万4千2百75円であります。

歳出につきましては、52億5千6百92万2千9百74円の支出済額で、保険給付費48億9千9百93万6千2百48円が主な支出であります。予算に対する執行率は98.7%で、6千9百84万3千26円の不用額を生じました。

以上によりまして、歳入歳出差引残額は、1億2千6百5万9千9百4円となり、これを令和3年度へ繰越しいたしました。

認定第5号 令和2年度常総市介護サービス事業特別会計歳入歳出決算についてご説明申し上げます。

歳入につきましては、予算現額1千7百15万2千円に対し、調定額、収入済額ともに1千7百50万4千9百1円で予算現額に対する収入率は102.1%で、サービス収入が主なものであります。

歳出につきましては、8百68万2千7百7円の支出済額で、予算に対する執行率は50.6%となり、8百46万9千2百93円の不用額を生じました。

以上によりまして、歳入歳出差引残額は、8百82万2千94円となり、これを令和3年度へ繰越しいたしました。

以上が令和2年度特別会計決算の概要であります。詳細につきましては、特別委員会におきましてご説明申し上げますので、よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

令和 3 年 8 月 2 5 日

水道事業会計決算説明

8 月 定 例 会 議

常 総 市



認定第6号 令和2年度常総市水道事業会計決算についてご説明申し上げます。

はじめに、決算報告書についてご説明申し上げます。

収益的収入につきましては、予算額の15億9千8百38万3千円に対し、決算額は16億1千6百75万4千5百75円で、1千8百37万1千5百75円の増でございます。収益的支出につきましては、予算額の15億3千9百90万6千円に対し、決算額は15億1千3百68万7千4百72円で、2千6百21万8千5百28円の不用額が生じました。

次に、資本的収入につきましては、予算額の1億5千6百55万9千円に対し、決算額は1億3千3百85万8千8百円で、2千2百70万2百円の減でございます。資本的支出につきましては、予算額の5億5千2百28万5千円に対し、決算額は5億2千9百90万6千2百50円、翌年度繰越が1千5百40万円で、6百97万8千7百50円の不用額が生じました。収入が支出に不足する額3億9千6百4万7千4百50円は、過年度損益勘定留保資金並びに当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額で補填いたしました。

次に、損益計算書についてご説明申し上げます。営業収益は12億9千59万3千2百4円で、営業費用は13億2千4百24万9千42円でございます。営業外収益は1億9千5百98万3百96円で、営業外費用は7千4百5万1千4百20円で、収益から費用を差引いた当年度純利益は、8千9百27万3千38円となり、前年度繰越利益剰余金の1千83万5千75円を加算しますと、当年度未処分利益剰余金は、1億10万8千2百13円となります。

次に、剰余金計算書についてご説明申し上げます。資本金の前年度末残高及び当年度末残高は42億4千25万5千15円で、前年と同額でございます。

また、剰余金のうち資本剰余金の当年度末残高は9千3百98万6千9百10円で、前年と同額でございます。

なお、利益剰余金のうち、建設改良積立金の当年度末残高は9千5百35万6千68円で、前年度末残高と同額でございます。未処分利益剰余金は、損益計算書のとおり、令和2年度末残高が1億10万8千2百13円となっております。

次に、剰余金処理計算書についてご説明申し上げます。令和2年度未処分利益剰余金が1億10万8千2百13円で、そのまま翌年度への繰越となります。

最後に、貸借対照表についてご説明申し上げます。資産の部では、固定資産が百16億5千7百14万4千4百11円、流動資産が11億1千9百48万7千2百30円で、資産の合計は百27億7千6百63万1千6百41円となります。負債の部では、固定負債が34億9千3百89万3千9百46円、流動負債が5



億6千5百71万3千2百92円，繰延収益の合計は41億8千6百31万8千977円で，負債合計は82億4千5百92万5千4百35円でございます。資本の部では，資本金が42億4千25万5千15円，剰余金が2億9千45万1千91円で，負債資本の合計は百27億7千6百63万1千6百41円となり，貸借は一致しております。

以上が令和2年度常総市水道事業会計決算の概要でございます。

詳細につきましては，特別委員会においてご説明申し上げますので，十分なお協議のうえ，よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

令和 3 年 8 月 2 5 日

下水道事業会計決算説明

8 月 定 例 会 議

常 総 市



認定第7号 令和2年度常総市下水道事業会計決算についてご説明申し上げます。

はじめに、決算報告書についてご説明申し上げます。

収益的収入につきましては、第1款 公共下水道事業収益では、予算額の9億5百62万2千円に対し、決算額は9億7百31万1千9百59円で、168万9千9百59円の増、第2款 大生郷特定公共下水道事業収益では、予算額の1億9千8百27万2千円に対し、決算額は1億9千8百64万9千6百23円で、37万7千6百23円の増、第3款 農業集落排水事業収益では、予算額の2億8千9百98万5千円に対し、決算額は2億9千98万1千63円で、199万6千63円の増でございます。

収益的支出につきましては、第1款 公共下水道事業費では、予算額の9億5百62万2千円に対し、決算額は8億8千6百3万2百34円で、1千9百59万1千7百66円の不用額、第2款 大生郷特定公共下水道事業費では、予算額の1億9千8百26万9千円に対し、決算額は1億9千27万8千2円で、7百99万9百98円の不用額、第3款 農業集落排水事業費では、予算額の2億8千9百98万5千円に対し、決算額は2億7千2百59万3千43円で、1千7百39万1千8百57円の不用額が生じました。

次に、資本的収入につきましては、第1款 公共下水道事業資本的収入では、予算額の22億5千79万円に対し、決算額は13億9千9百92万2千8百50円で、8億5千86万7千50円の減、第2款 大生郷特定公共下水道事業資本的収入では、予算額の1千9百88万7千円に対し、決算額は1千9百44万6千円で、44万1千円の減、第3款 農業集落排水事業資本的収入では、予算額の9千8百64万3千円に対し、決算額も同額でございます。資本的支出につきましては、第1款 公共下水道事業資本的支出では、予算額の25億1千7百40万円に対し、決算額は16億7百98万2千5百33円、翌年度繰越が7億3千9百16万5千円で、1億7千25万2千4百67円の不用額、第2款 大生郷特定公共下水道事業資本的支出では、予算額の5千3百97万5千円に対し、決算額は5千2百95万7千4百50円で、101万7千5百50円の不用額、第3款 農業集落排水事業資本的支出では、予算額の1億5千4百5万3千円に対し、決算額は1億5千2百万2千8百62円で、2百5万38円の不用額が生じました。資本的収入額が資本的支出額に不足する額2億9千4百93万9百95円は、当年度消費税及び地方消費税資本的収支調整額及び当年度損益勘定留保資金で補填いたしました。

次に、損益計算書についてご説明申し上げます。営業収益は3億3千2百19万4千3百45円で、営業費用は11億6千4百20万8百89円でございます。営業外収益は10億3千3百80万9千2百80円、営業外費用は1億4千3百66万7百62円、特別損失は7百20万5千6百52円で、収益から費用を差引いた当年度純利益は、5千93万6千3百22円となり、当年度未処理分利益剰余金も同額となります。

次に、剰余金計算書についてご説明申し上げます。資本金の前年度末残高は8億1千6百63万3千1百78円、当年度変動額の2億4千8百92万6千円を加えまして、当年度末残高は10億6千5百55万9千78円でございます。

また、剰余金のうち資本剰余金の当年度末残高は7億4千29万2千8百48円で、前年度末残高と同額でございます。

次に、剰余金処理計算書についてご説明申し上げます。令和2年度未処分利益剰余金の5千93万6千3百22円がそのまま翌年度への繰越となります。

最後に、貸借対照表についてご説明申し上げます。資産の部では、固定資産が279億9千5百75万2千6百40円、流動資産が4億4千6百53万8千2百60円で、資産の合計は284億4千2百29万9百円となります。負債の部では、固定負債が95億5千54万3百10円、流動負債が8億5千3百57万4百20円、繰延収益の合計は百61億8千39万1千8百22円で、負債合計は265億8千5百50万2千5百52円でございます。資本の部では、資本金が10億6千5百55万9千78円、剰余金が7億9千22万9千70円で、負債資本の合計は284億4千2百29万9百円となり、貸借は一致しております。

以上が令和2年度常総市下水道事業会計決算の概要でございます。詳細につきましては、特別委員会におきましてご説明申し上げますので、よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。